

科目区分	基礎分野	授業科目	心理学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30 時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 人間の心や行動を理解し、対象を多面的に理解する基礎的能力を養う。</p> <p>目標: 1 人間の心と身体・社会・環境の関係を理解できる。  2 人間の心が行動に与える影響を理解できる。  3 患者心理の特徴を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
	29	1 人間の理解と心理学 2 認知からの人間理解 1) 感覚 2) 知覚 3) 記憶 4) 学習 3 行動からの人間理解 1) 適応とは 2) 欲求と行動 3) 感情と情動 4) フラストレーションと葛藤 5) ストレスとコーピング 4 発達からの人間理解 1) 発達理論 (1) フロイトの発達理論 (2) エリクソンの発達理論 (3) ピアジェの発達理論 2) 心の発達の特徴と発達課題 (1) 乳児期 (2) 幼児期 (3) 学童期 (4) 青年期 (5) 成人期 (6) 老年期 5 パーソナリティからの人間理解 1) パーソナリティとは 2) 知能 3) 性格 4) 自己と自己概念 6 看護にいかす心理学 1) 患者心理 2) 心理療法における関係	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート等		
テキスト	福村出版 新 医療と看護のための心理学		

参考資料	必要に応じて適宜紹介する。
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。
備考	

科目区分	基礎分野	授業科目	倫理学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1 単位(15 時間)	開講年次	3年次
<p>目的: 生命の尊さや人権を学ぶことを通して、自己の倫理観を見つめ、個人倫理、社会倫理、職業倫理を養う。</p> <p>目標: 1 倫理の基礎を理解し、臨床における倫理的問題が理解できる。 2 対象の人権を擁護する必要性を理解し、看護師の責務が理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
	14	1 倫理の基礎 1) 価値の規範 2) 倫理と道徳 3) 倫理と法律 2 臨床の倫理的諸問題 1) インフォームド・コンセントと意思決定 2) 体外受精・出生前診断・人工妊娠中絶 3) 遺伝子操作 4) 暴力と拘束 3 患者の人権 1) 死の選択と医療従事者の責務 2) 脳死・臓器移植 3) 安楽死・尊厳死	
	1	試験	
評価方法	レポート課題		
テキスト			
参考資料			
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		
備考			

科目区分	基礎分野	授業科目	文学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	1年次
目的：文学作品を読解し、人間理解を深める。 目標：1 文学作品を通して、登場する人物の背景をとらえ、人間の心のありようを理解する。 2 文学作品を読解し、表現力、想像力を深める。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
	14	1 詩の鑑賞と創作・発表 2 短歌と俳句・川柳の理解 3 古典に学ぶ 4 絵本の創作	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、創作活動状況		
テキスト	翰林出版 日本語表現法 21世紀を生きる社会人のたしなみ		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 鑑賞、創作活動や作品発表では主体的に参加すること。 授業で取り上げた文学作品はもちろん、その他の文学作品にも多く触れること。		
備 考			

科目区分	基礎分野	授業科目	人間関係論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30 時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 自己理解を深め、対象との援助関係を形成できる基礎的能力を養う。</p> <p>目標: 1 人間関係の基礎知識を理解できる。</p> <p>2 他者との関係性をとおして、自己洞察を深めることができる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 人間関係を理解するための概念や理論	20	1 人間関係の中の自己と他者 1) 関係的存在としての人間 2) 自己認知 3) 対人認知 2 対人関係と役割 1) 対人関係の成立 2) 対人関係の維持と崩壊 3) 対人葛藤と対処 4) 社会的役割 3 態度と対人行動 1) 態度と態度変化 2) 説得的コミュニケーション 3) 攻撃 4) 援助	
2 自己理解と他者理解の実際	9	1 人間関係ワークショップ(オリエンテーション含む)	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート等		
テキスト	医学書院 人間関係論		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。 積極的に参加すること。		
備考	人間関係ワークショップでは、他者との関わりをとおして自己をみつめ、他者に与える影響と自己洞察を深める内容とする。		

科目区分	基礎分野	授業科目	社会学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的：人間の行動や社会現象を理解し、看護の対象が様々な地域社会に暮らし多様な社会の中で生活していることを認識できる能力を養う。</p> <p>目標： 1 社会構造や社会的人間の集団特性を理解することができる。  2 家族社会と家族の機能の変遷を理解することができる。  3 現代社会における諸問題について社会学的な視点から多面的に考えることができる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
	29	1 社会学とは 1) 社会学と看護 2) 社会学の社会 3) 社会学の歴史と社会 4) 現代社会論としての資本主義 2 家族社会学 1) 家族を創る 2) 家族の機能と構造 3) 婚姻と家族 4) 家族責任とジェンダー 3 地域をめぐる社会学 4 医療社会学 1) 脱病院化社会 2) 生と死 3) 病院と死 4) 社会のなかの死 5 メディアと情報化をめぐる社会学 1) メディアとは 2) 情報化社会 3) 電子メディアと現代社会 4) インターネットと公共圏 5) 監視社会と情報化社会 6 社会の中の医療と看護 1) 役割としての病人 2) 病人役割論の問題 3) 感情労働としての看護 7 インナートリップとしての社会学 1) 自我 2) 自我と他者のコミュニケーション	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		
テキスト	ミルネヴァ出版 よくわかる社会学 第2版		
参考資料	必要に応じて紹介する。		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。		
備考			



科目区分	基礎分野	授業科目	英語
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的：看護活動の場面に必要な英語力を養う。</p> <p>目標：1 看護場面における英語でのコミュニケーション方法を理解する。 2 対象の文化背景を考慮したコミュニケーション方法を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
	29	<p>1 看護に必要な英語</p> <p>1) 診療・看護場面で使用される医療英単語</p> <p>2) 診療・看護場面における英会話（ロールプレイを含む）</p> <p>2 異文化とコミュニケーション</p> <p>1) 生活文化を考慮したコミュニケーションの意義</p> <p>2) 英語圏の文化背景とコミュニケーション</p>	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		
テキスト	鷹書房弓プレス社 マナーとホスピタリティの英語 I II III		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やロールプレイは積極的な参加姿勢で臨むこと。		
備考			



科目区分	基礎分野	授業科目	教育学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位( 30 時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 看護の対象に応じた効果的な教育に必要な基礎的知識・方法を理解し、教育的役割を遂行する能力を養う。</p> <p>目標: 1 教育の意義と基本的な理論を理解する。 2 教育の方法と評価を理解する。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
	29	<p>1 人間の成長と教育の意義</p> <p>1) 人間にとっての教育の意義</p> <p>2) 教育の目的</p> <p>2 教育に必要な基礎理論 (学習理論)</p> <p>1) プログラム学習</p> <p>2) 発見学習</p> <p>3) 完全習得学習</p> <p>4) 問題解決学習</p> <p>3 教育方法</p> <p>1) 発達段階における教育の特徴</p> <p>(1) 乳幼児と教育の特徴</p> <p>(2) 学童と教育の特徴</p> <p>(3) 成人と教育の特徴</p> <p>(4) 高齢者と教育の特徴</p> <p>2) 教育の場</p> <p>(1) 家庭教育</p> <p>(2) 学校教育</p> <p>(3) 生涯学習と社会教育</p> <p>3) 教育効果に影響を与える条件</p> <p>(1) 身体的・精神的状態</p> <p>(2) レディネス</p> <p>(3) 学習意欲と動機づけ</p> <p>(4) 学習環境</p> <p>(5) 学習者と教育者の人間関係</p> <p>4) 学習指導</p> <p>(1) 教育方法の基本原則 (本質)</p> <p>(2) 目的の実現に役立つこと</p> <p>(3) 対象の状態に即すること</p> <p>(4) 教育者の人格が反映されること</p> <p>(5) 人間関係・物的条件・社会的条件が作用すること</p> <p>5) 学習指導の原理</p> <p>(1) 自己活動</p> <p>(2) 直観</p> <p>(3) 理解</p> <p>(4) 練習</p> <p>(5) 個別化</p> <p>(6) 集団化</p> <p>4 教育評価</p> <p>1) 教育評価の機能と目的</p> <p>2) 教育評価の方法</p>	

	1	試験
評価方法		筆記試験
テキスト		医学書院 教育学
参考資料		必要に応じて適宜紹介する。
履修上の 留意事項		予習・復習を授業に臨むこと。 積極的に参加すること。
備考		

科目区分	基礎分野	授業科目	芸術
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	3年次
<p>目的: 芸術に触れることで、感性及び自己表現力を養う。</p> <p>目標: 1 芸術に触れ、創造することを通して、多様な価値観をもつ対象を理解する感性を培う。 2 創作活動を通して自己の創造性を磨き、表現力を養う。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 芸術	15	1 陶芸・華道・皮革工芸(選択) ※関心のある題材で学習することにより、自ら興味を持って取り組み、自己の満足感につながる。故に、選択とする。	
評価方法	作品 課題レポート		
テキスト	なし		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		
履修上の留意事項	実施前後で準備・片付けがあるため、時間に余裕をもって行動すること。		
備考			

科目区分	基礎分野	授業科目	哲学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	2年次
目的: 物事を多様な側面で考えるための素地となる力を養う。 目標: 1 自己・他者・生・死について考えを深めることができる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
	14	1 哲学とは 2 主な哲学のテーマ 1) 存在論 2) 認識論 3) 価値の問題 4) 言語・ことばの問題 3 人間の「生きる」という在り方について	
	1	試験	
評価方法	筆記試験(レポート)		
テキスト			
参考資料	NHK 出版 ヨースタイン・ゴルデル著「新装版 ソフィーの世界(上)(下)哲学者からの不思議な手紙」		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		
備考			

科目区分	基礎分野	授業科目	コミュニケーション論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(45 時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 人間関係の成立と対象に適した看護実践を展開するためのコミュニケーションの方法を理解する。</p> <p>目標: 1 看護実践におけるコミュニケーションの活用方法を理解する。  2 チームワークを用いた課題解決ができる。  3 効果的なカンファレンスの運営方法が理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 看護におけるコミュニケーション	20	1 コミュニケーションの意義と目的 1) コミュニケーションとは 2) 医療・看護におけるコミュニケーションの目的と特徴 3) コミュニケーションの構成要素と成立過程 2 看護場面におけるコミュニケーション 1) 関係構築のためのコミュニケーションの基本 2) 効果的なコミュニケーションの実際 3) 対人関係に着目した理論家とその特徴 3 看護場面におけるプロセスレコードとその活用 1) プロセスレコードの意義 2) プロセスレコードの活用方法 3) プロセスレコードの実施(演習) 4) プロセスレコードの分析・考察	
2 チームワークを高めるコミュニケーション	10	1 チームワークとは 2 チームワークの重要性 3 チームワークの向上に必要な要素 4 チームワークを用いた課題解決の実際(演習)	
3 医療者間のコミュニケーション	15	1 医療スタッフとのコミュニケーションの基本 1) 報告・連絡・相談 2) 交渉・調整・確認 2 カンファレンス 1) カンファレンスの基礎知識 (1) カンファレンスとは (2) カンファレンスの構成メンバーと役割 (3) カンファレンスの流れ 2) チームケアと多職種参加のカンファレンス 3) カンファレンスの運営の実際(演習)	
評価方法	筆記試験、レポート、グループワーク発表等		
テキスト	医学書院 基礎看護学[2]基礎看護技術 I 医学書院 人間対人間の看護		
参考資料	日本看護協会出版会 チームの連携力を高める カンファレンスの進め方 金芳堂 看護グループワークは楽しい、おもしろい		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		

備考	チームワークを用いた課題解決の実際では、チームで選択したテーマに対するプレゼンテーションを行う。 カンファレンスの運営の実際では、基礎看護学実習Ⅱでの看護体験をプロセスレコードに起こした後、プロセスレコードカンファレンスを行う。
----	---